




## 論文審査結果の要旨

|   |   |
|---|---|
| 論文提出者   | 村上 弘  |
| 論文審査委員  | 主査 沢 禎彦                                      |
|   | 副査 谷口 邦久                                     |
|   | 副査 日高 真純                                     |
| 論文題目  | Association of Caspase-14 and Filaggrin Expression with Keratinization of the Oral Mucosa and Reconstruction Culture Rat Models |
| <p>(論文審査結果の要旨)</p> <p>カスパーゼ 14 は、表皮顆粒細胞で産生される塩基性タンパク質フィラグリンを分解して、ケラチンとともに皮膚のバリア機能に欠かすことのできない角質層を形成するにあたり重要な役割を担うこと、角化亢進ではなく皮膚の保湿成分として重要であることが良く知られている。本論文では、マウス口腔粘膜由来上皮細胞と線維芽細胞の3次元培養による粘膜モデルを応用した形態分析、ウェスタンブロットと定量 PCR など生化学分析の両者を施行し、カスパーゼ 14 の活性化によるフィラグリンの分解が口腔粘膜上皮の角化亢進に寄与する可能性、さらに緑茶成分 epigallocatechin gallate (EGCG) がカスパーゼ 14 の活性化を促進することで粘膜の角化を亢進させる可能性を示唆した論文である。</p> <p>本論文は、歯周病学分野において、抜歯窩や歯周外科治療部位の角化亢進による治癒促進を目的とする新たな治療法のアイディアを提起する萌芽的研究であること、多岐にわたる実験手技で検証しているため信用性が高いと考えられることから、学術的価値が高いと考えられ、また公開発表会において、学位申請者の応答が的確であったことを併せて、予備審査を合格と判定した。</p> |   |